

専門分野 I 基礎看護学 授業計画

授業科目及び時間数	基礎看護方法V 1単位 30時間		
開講時期	1年次 前期		
担当教員	亀山美穂	実務経験	有
<p>科目のねらい・到達目標</p> <p>基礎看護学では「看護の対象及び健康、看護の機能・役割について理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ」ことを目的とし、基礎看護方法では看護の対象者が日常生活に援助が必要となった場合の援助技術の基礎を学ぶものとしている。</p> <p>基礎看護方法Vでは食事と排泄の援助について考える。食事について看護師は、疾病・障害などなんらかの理由で、食事ができなくなった、あるいはしづらくなった対象者に、その人の通常の生活に近い状態で食事ができるように援助する役割をもつ。また排泄については対象者の自立に向けてその人のもてる力を最大限発揮できるような援助を考えなくてはならない。ここでは、対象の健康・生活を支える基本的ニーズを充足させるための食事と排泄の援助技術の基礎を学び、演習・実習で実践する頻度の高い援助技術を体験することで更に学びを深めるものとする。</p>			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 安全な食事援助を考える	演習	
2回目	1. 食事の意義 2. 食行動のメカニズム	講義	
3回目	1. 消化と吸収のメカニズム 2. 食事介助の具体的方法	講義	
4回目	1. 栄養状態、摂食嚥下訓練について	講義	
5回目	1. 非経口的栄養摂取の援助方法 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法	講義 デモンストレーション	
6回目	1. 安全な食事援助の実際	演習	
7回目	1. 食事について 学習のまとめ 2. 排泄援助について考える	グループワーク 発表	
8回目	1. 排泄の意義 2. 排泄のメカニズム	講義	
9回目	1. 排泄に影響を及ぼす因子 2. 排泄機能・排泄行動のアセスメント	講義	
10回目	1. 排泄援助の基本的技術 2. トイレ又は床上排泄援助(尿器・便器のあて方)	講義	
11回目	1. 床上排泄援助の実際	演習	
12回目	1. 排尿・排便障害について 2. 尿失禁の原因と対応	講義	
13回目	1. おむつによる排泄援助	講義	
14回目	1. 浣腸の方法 2. 一時的導尿	演習	
15回目	終了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験 100%		
受講生に対するメッセージ	講義が中心ですが、演習も含まれます。グループワーク・発表も行いますので、積極的に参加して発言してください。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
参考書			